

パネル調査におけるサンプル脱落の要因分析 *

—幸福な人ほど脱落するか？—

畑農鋭矢 (明治大学)

竹下 諒 (常葉大学)

2018年4月

[要旨]

三輪(2016)で議論されるように、パネルデータの脱落が無視できない場合、バイアスを除去するために補正が必要となるが、適切な補正のためには脱落を規定する要因の解明が必須である。坂本(2006)を初めとして、萩原・樋口(2015)のサーベイにあるように多くの研究が蓄積されつつあるが、いまだ規定要因について一致した実証結果が得られているとは言い難い。そこで、本稿は、独自に調査設計した「社会規範・政策選好・世論の形成メカニズムに関するパネル調査」のデータを用いて、パネル調査の脱落確率関数の推定を行い、脱落の要因を探ることを目的としている。得られた最も重要な結果は、幸福度が脱落確率と相関することであり、幸福であればあるほど脱落しやすい。したがって、パネルデータに基づく幸福度研究において、脱落確率を考慮した補正を行わないと、結果にバイアスが生じる可能性がある。ただし、属性や幸福度と相関のある脱落はパネル調査の初期に集中しており、調査が進むとバイアスは徐々に緩和される。

JEL Classification: C81, C83, I31

参考文献

- 坂本和靖(2006)「サンプル脱落に関する分析—「消費生活に関するパネル調査」を用いた脱落の規定要因と推計バイアスの検証」『日本労働研究雑誌』No. 551, 55-70.
- 萩原里紗・樋口美雄(2015)「パネルデータ特有の問題とその解決及び政策評価—パネルデータのサンプル脱落への対応及び政策効果の検証方法に注目して—」『社会と調査』第15号, 12-20.
- 三輪 哲(2016)「パネルデータにおけるサンプル脱落への対処」, 筒井淳也・水落正明・保田時男編『パネルデータの調査と分析・入門』ナカニシヤ出版, 第6章, 61-73.

* 本研究は JSPS 科研費 25285093 (基盤研究 B 「社会規範・政策選好・世論の形成メカニズムに関するパネル調査」、研究代表者：畑農鋭矢) の助成を受けている。